繪本古狀揃注釋

假名付

下

西塔武蔵坊弁慶書捨て一通

無量の八幡宮の末社

陸奥の人と一旦義経ホ

陸奥守殿軍法をつくし文治五年

奥州義経と共ホ戦死そその件

ありて後ホ捨てホのこせし状

あれば去状の一通こゝに書載てう

抑義経と泰衡の不和雲別

彌陀如来願

不思議智慧

法蔵菩薩の願

法蔵菩薩の願

況乎利益

況乎利益

無量寿経

無量寿経

阿弥陀

阿弥陀

一向専修

一向専修

法然聖人

法然聖人

秘法

秘法

一の口伝

一の口伝

法を授け

法を授け

法くし

法くし

於念仏

於念仏

禅宗

禅宗

称名

称名

真宗

真宗

仏教

仏教

真の真宗

真の真宗

二尊法

二尊法

大師

大師

あり今劇八仏祇より親る性格義八邪惰より地る欲めて
帰所所の二ツ陰陽人形の形成(?)而して其不見慮度形仏の智
所なり これその仏智不化せざる是形成変ずて正とるのせば二ツ
なり 故不二の法とこの人性と称ずるなり法爰大事なり
とぞ大月如来八天名ゆえ見慮度形とのへ
日の別名ゆえあまねく照るの義なり

我自出
無之胸内
未不犯禁戒金
儀人書ら道欲達遍者二

世の中懐ら悪ら富家
雖通ら今和果者欲

八仁義礼智信人のつとめなるべきの乃ち遍者八今世二世
いろとの事来ることのわこ二世ものの人意八これ生まれより四法ハ
情るとろく人の人なる乃ち世のか情ハ一ものの姿を
滅ー人今世と来んド一本来を明らん人の本を知わよせて
新ひーグあの世の因縁とのがるるのの
結果世を業を今果附なりぬる者ろと

源頼朝公の家臣

源義経

源為朝

源頼朝公の家臣

源為朝

源義経

合浦船浦浪花能所竜宮社
者雷之助実者着虎乳清服入
源頭黄金羅宇国字十文字鍔
鞘茶筅髪結彼遠伝流若侍三
世之数物語

合浦船浦の浪ハ半蔵の
刀ぬぎ法あり合浦ふうぐる

船の乗ハ仕せて震らぎるごとく浦浪のうるうとゆ
ばらごとく
発狂ぬ夢の疑して見ることがごとく間能し夢の能都
ゆてたりのを電光のごとくあくごとく奔竜の乳れ行ぶ
ごとく清眼ハつ夢入り濡れ影の鬼の羅宇国十文字鍔
長刀の色をつくしおのよう変天まで撥ぶ鞘ことの人た已ぶ
ゆ濡を知らぎるなと入ハ浦鞘の茶筅撥入てうる東を震ん
とするごとく絵ハ半着九ハ遠伝さとう見ハ初めて立
浪の製物をなせーとこ伝流ハ着ハ三世の製て一さび着侍
ところれば亜の名より
ぬんて
絵そばとわり

実説東雲師傳物

蜀劉將軍漢後胤關西三千
三箇國大將不運終一同汗時
墨西和く東三補兼武藝
憤

劉玄徳より無双の将とあり七歩の才を補佐し佐まで
一旦は義経を劉将軍と申日本国を天下に治
あまたの人々多分のこゝみて将軍も西海安坊しあへて後いかで萬
民の苦ある憤の後迄もの跡あとへ関西といふ往昔に列

まさに坂小関をもえうれ其より車を
関東とひ西を関西といへり
けを　ろうしも　まんのぐんびやうをあつめくの
動力進汗軍
家卒數万雲下城廓安向
の　さぎこもあぎれ者あくぎみそれじまさぐぶつまり
急劫兆備果又佐生
よし經邦の
代衣ましてかくの
ぶんやつと
軍紀を勤めくるは附八屑
ゆあるも我又足に治へひ
長浪太天下哉
せう　さうを　ある　くずれとぞれありぎま
雲霜生塵則淡萬籍輝漢

沈滄海智勇奏功

四海

遠まるごとく場の名人の名を高麗うろたの双び
良いもの[illegible]房とのいろ[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]をめぐし[illegible]

越西海則[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]海[illegible]

[illegible]

月の[illegible]勇[illegible]

軍[illegible]

武勇を[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恨後者勢力高偏又為実

逆櫓の恨のこと

合戦はかくのごとく敵味方已に中国の平和と対峙せしが

本能寺を焼して関西の武を振張す十数年の中と雖も義理の武器凡そ

拾年をのべて義理遂に尽きんと欲す

らざるはよりて終に一隙なんとするのこと有り所謂実と為

清兵衛不和にして孫兵衛遺恨

当上方和議の年之

隔

義理夫人の歌に

ちはぎりとあれをとぶらふ隔てて

て遠のくは不和成今人てのよく

国の名於中国にあるゆえ手負

たくて和平の

雖同姓同

兄弟親疎遠

同元雖異姓

ちはぎりとあれをとぶらふ隔てて遠のくは不和成今人てのよく

国の名於中国にあるゆえ手負

たくて和平の

雖同姓同

兄弟親疎遠

同元雖異姓

[illegible]

[illegible]堀川[illegible]

土佐坊[illegible]昌俊[illegible]之時[illegible]

[illegible]判官[illegible]十三騎

[illegible]

文治元年十月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其後[illegible]義経[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]関東[illegible]下向[illegible]文

武二道之名将一百騎無勢軍
仏敵名源源氏
不義濫
将の日本廣しとの人ども一分と
なごりて天子を背とそむき堀よりぬけ
通ぬ

蝶之と披露し洋迄に推げて千文とん城纖に續く人数にあへせ鄉の
是のぞ上し纖中て番塁実则に慕せしが天命今え纔に第之
きるるところよりくひでしそくさんえんのむろんみふちふくん

纖文織秀鄉才息文保叛纖爲

還異非纖官插

秀鄉の御弟九代の孫之
一結ゐ府將軍隣書と是れ

押順使として威勢を実则に振ひ義弥氏くまひで高饒と云ひ
纔表と云て威勢をゆるぎ纔るに秀鄉孔の西纖老太郎に秀鄉の余ひ
赤衛弁吉尉若ゐ秀鄉に秘役の命ならけて父の是と云に首紀録の
饒氏せぬ周むによりて仮饒ま泥さちまち纖の名の插のごく旡

倩案事意に周戰場之雅
言君卑素首尾金玄逆耳者
也須泥肯中快倭人穢道更公議
上図

らく成行ての元を云ふに彼逆橋氏争ひし雅云より
起れる是瑠る果の種よ功あまで秀ほよ茸んせず
今と云れ身よ益あまで耳氏怯べしめざるなくするのみとと
及そのべたとのあまりども偽人悪ある人中も上まの違せじとと

松

不運天命也思ひ儲て渡河す

源道勝手に帰る

所詮勝負を一合戦

項羽の運尽ぬる如し

ことわりぬ

合戦夜に入て無勢なり〳〵軍を赤津に移す

楚の項羽と漢の高祖と合戦一年に及ぶ

項羽つひに運尽て高祖の軍と成ぬ

合戦の日数

源氏国々に

不思議

仁不仁は君主に

先帝保元平治の

第四国代未聞

今日幸に一命

揚名を天下に

[illegible]

トル
二尊よつくぞ列安い二丈よ寸ぞと晋の主張がつひ一流よつつく
新人戦繋くちり一度義拝戦主君と敵と者と元の幸若生死を偶よ
一ちら義戦きんぞ見ぞ弓筋ころ宮幡月う今月戦敵りよ一
命をちこせ平石を万代の天よあげ武勇れ参れ戦来世と治まぞこと

右之一通明月拝見寄之所一貳

者也

山去拝の百戦死の後よて拝見せられるべ
矢弓ぐ鎧武戦あのくの鷹よあげろ者ぞこと

文治元年閏八月廿九日

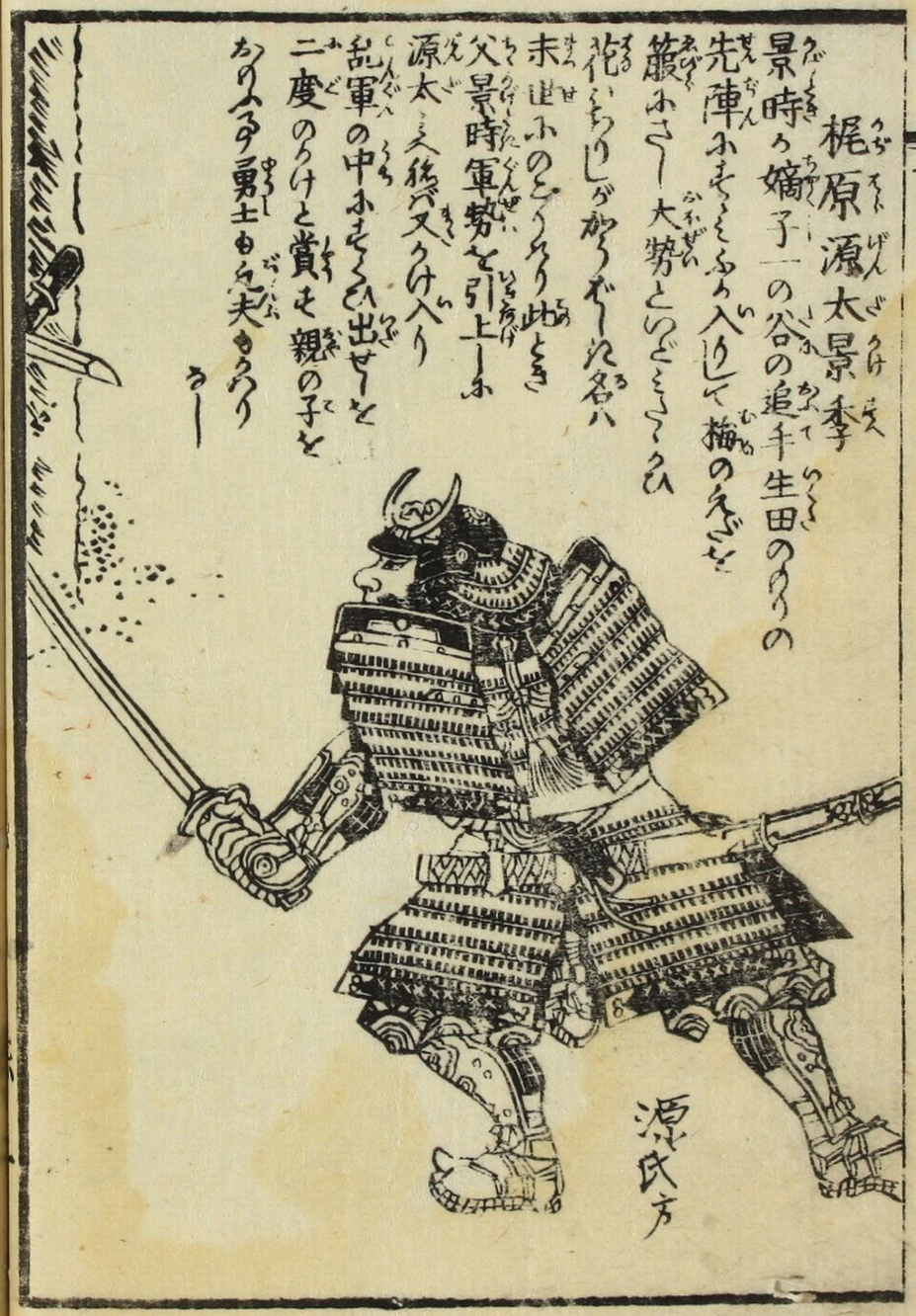
武州熊谷の産私の黨のそうが
一ら勇猛ホーて義とあり人を
義とも公の十六騎の一人
保元の軍ホ功あり
平家追討の又
一時一の谷逸年の先
陣を心うけ軍功ぞ

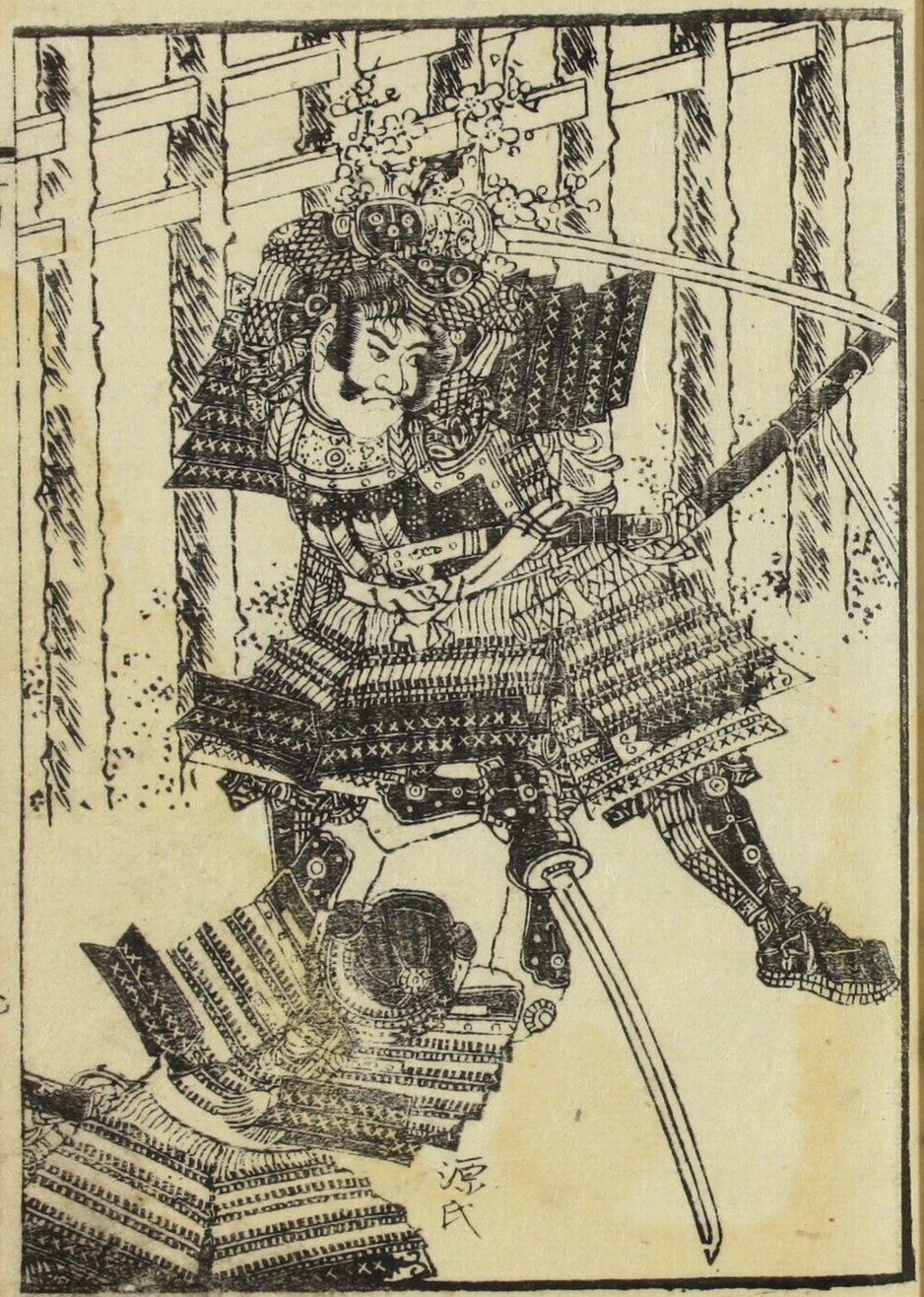
平経盛の子息敦盛
容貌艶麗く横笛の妙あり
義勇そなわり歌ふを聞しめ
能登守教経
弓勢強勇双びなき大将
ゆゑ源氏の諸軍を
おそれしむ

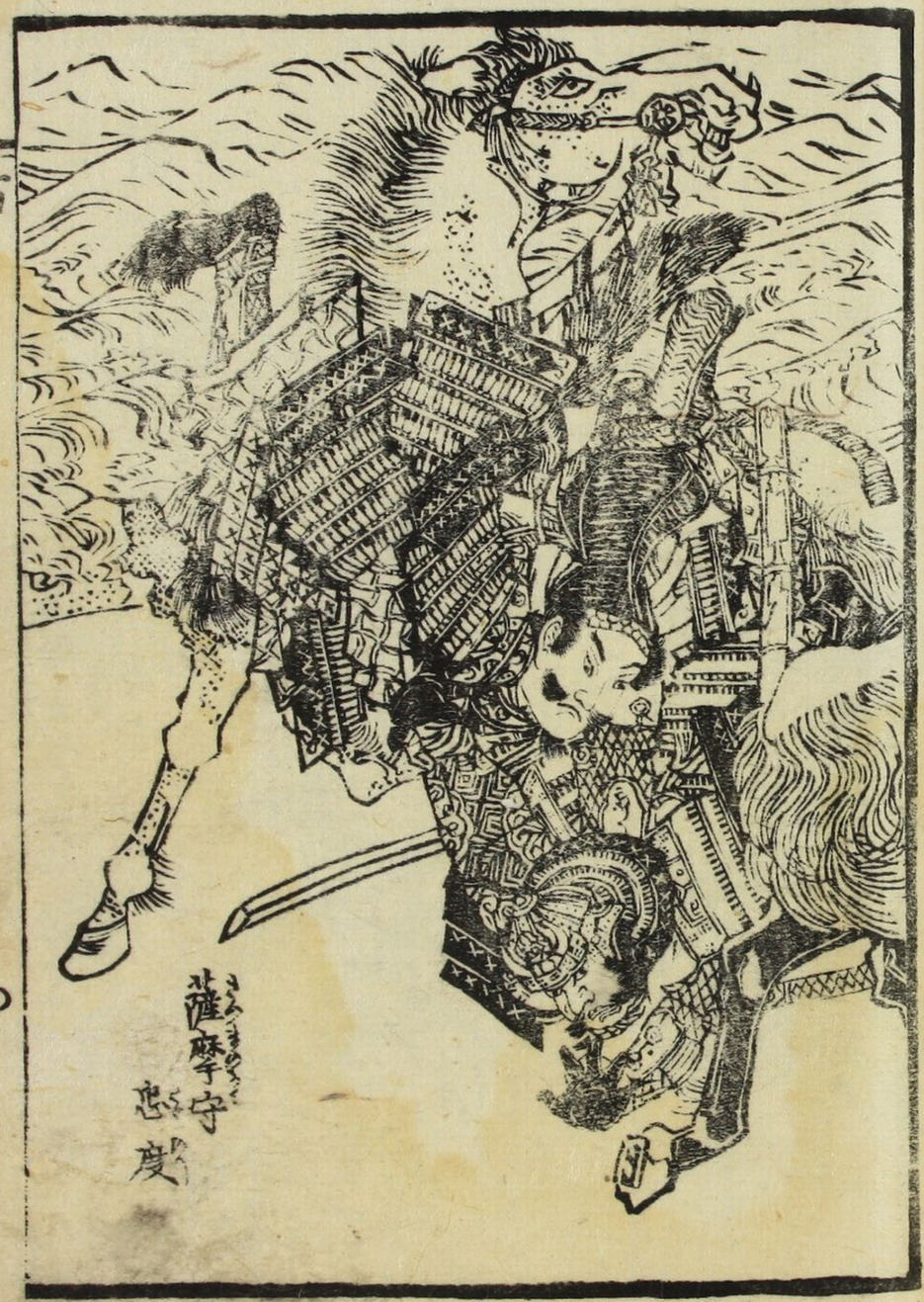
薩摩守
忠度
風雅の志ふかく和歌を
このゝ名吟かゝるも
俊成卿称誉のあまり
千載集ふかぎと一首を入らる
後世の美談なる武勇も衆人ふかくるの

梶原源太景季

景時の嫡子一の谷の追手生田の森の
先陣ふせぐ〻ふり入りて梅の木ざと
籔ふさ〻大勢とのどとさ〻ぐ
花ぐもりしが加〻ぐ〻ぐ名ハ
未詳ふのとぐ〻り此とき
父景時軍勢を引上〻ふ
源太ぐ〻又後ぐ〻又ぐけ入り
乱軍の中ふせぐ〻出ぜ〻を
二度のぐけと賞せ親の子を
ぐの人ぐ勇士もぐ夫もぐり
ぐ〻






薩摩守
忠度

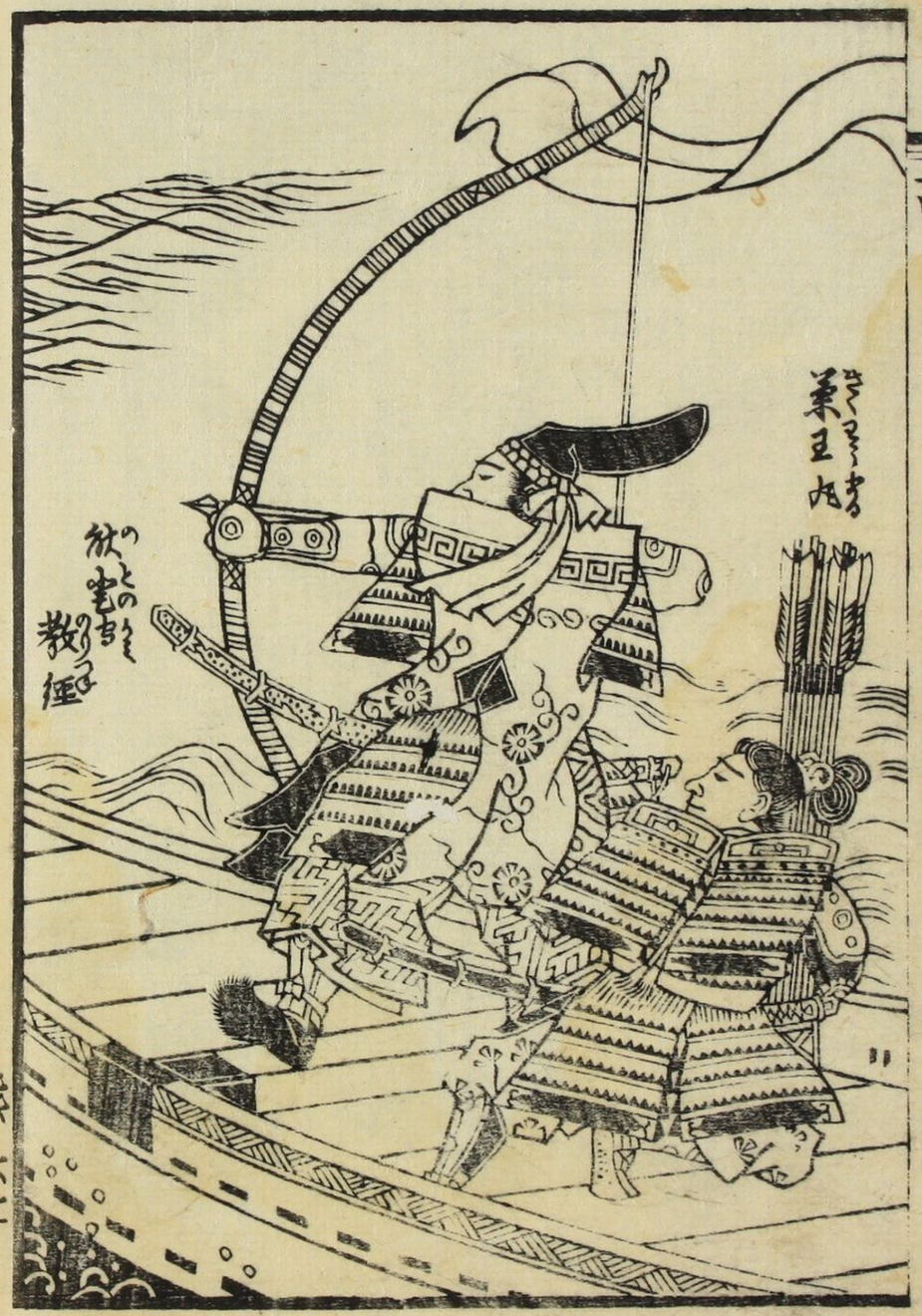
忠度一の谷落城のゝぐり岡部の六弥太忠澄を
くゝやゞせーとる岡ゞ郎ホりとろう
▲忠のりゝ右の腕を
うちおとゞ忠のり
自殺ゐーゐふ

熊谷ハ平山と先陳をあ〜そひ
さんさをめくり打ふせ
おくれ馬おて海を
うちきんとせるを
熊谷あふぎ紙
ひらいてちび
くまぶとるこの
きり〳〵のりと
あべーこうい
組をきて
直實敵の
首を
熊谷
直實

かんと面をくれべ
美少年
はりの
手ごろふ
似さうしふ
勇氣
なをと
いっそうて
甲を乙らけ
ありひろ
平の
敦盛

○平家の一門
一のこるのもろを
源氏の軍兵
海のもきく
西

ことがあられ
討ちしのこぶ子
直家卿の日せこのそ
千ちぎをおひし時のかりひ
戰功ふ久て經盛の
首級所持の品ふ
書面をそへておくりつ
ハそ是を熊谷状とぞ
敦盛の
父の


菊王丸
欲の老の教經

義經公軍兵をもよめ
平家と矢嶋よ
戰ひ教經強
義經の
郎等
佐藤忠信の
けんぐわつとゝ
忠義と
わ〜らを

畠山ひよどりごえの嶮岨の山をこゆることハ戦場にて大切の物なりとて
みづから馬を背におひてかけおりしといへり力量世にすぐれたれバさも
ありしや凡弓術の秘するところハ強弓にてハのるぞいさゝかの心をもち小川
さへわたりてハおのれが労せざるが肝要なりときこゆ重忠の実
功を今にのこせられし吉事なるべし
平家の一門西海にたゞよひ君をそだてめ女房をあちこちなしたまへバ
敦盛ハ人をそのかしめ扇をひろき下さしまひぬひ今にあそめ
にくしき東男のつるぎのさびとなりせんよりハと自害して
勇威厳猛なるありさまに総軍感歎なしにける

熊谷状

熊谷状とハ熊谷直実一の谷の合戦に平家の公達敦盛を討く其首級を敦陣へおくり消息せし時の状なり

直實謹白抑今度不慮蒙
會此君臣將帥之戦場
秦皇燕丹之勢難遁勝負

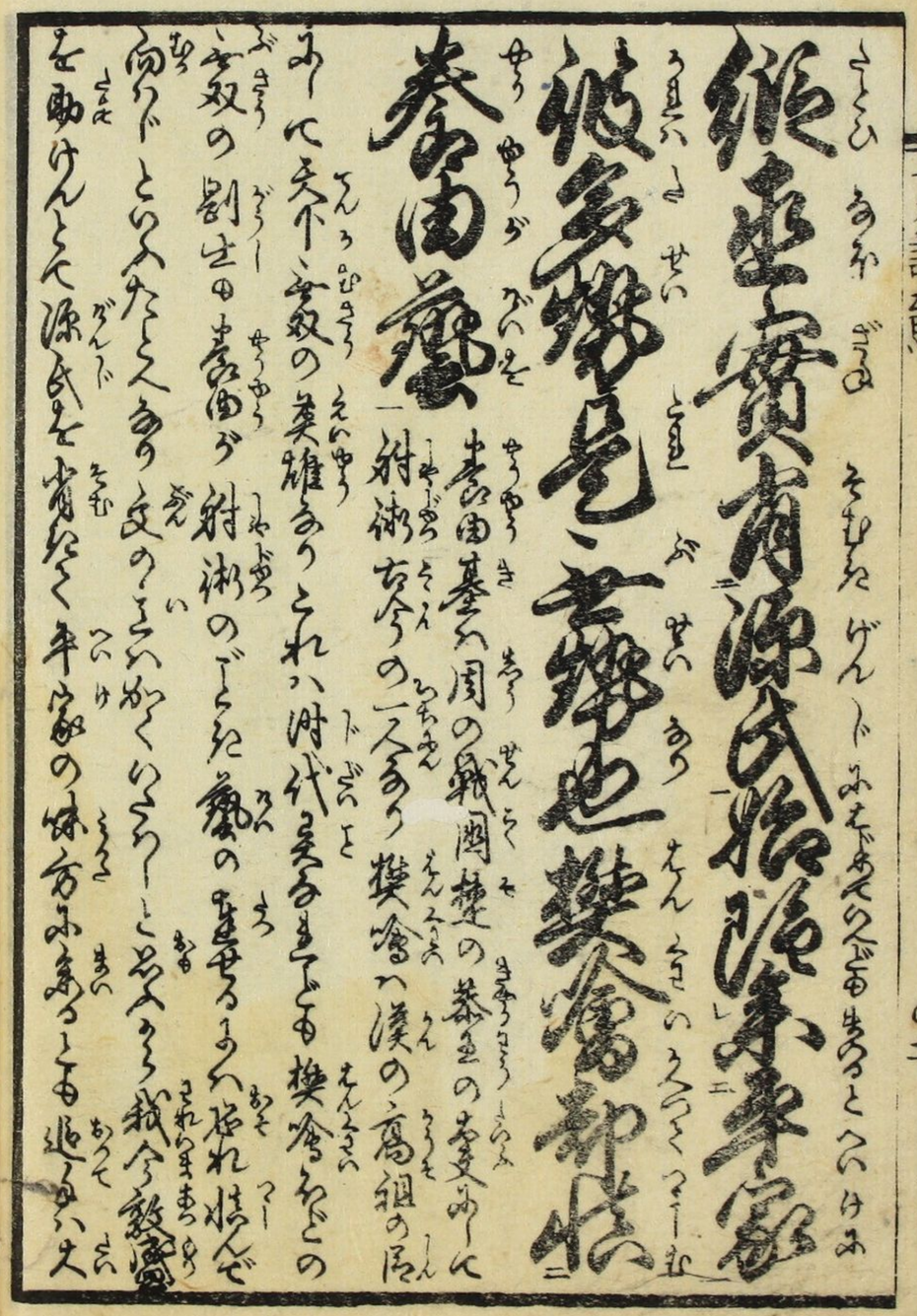
刻

岩之丞平家の公達敷盧戒指上呉王白戒秦王燕
丹い岩ふの岩まーの故事みて呉戒合戦の浦々梶
戒物ふりえそう燕丹之燕王戒の名あり
秦の始皇のなりふ饗と名りーが燕ふ降て父ふ敵ぜんと
を清へ始皇向元爲ふ来る丁ーまーバ少ちん之へう附ふ丹の
和者矢ふ盛ふ成せーや実ふ向元爲ふ来れバ始皇驚いて
丹を燕ふ返せーあーく文の意へ車実今度一の岩みて之へ出
公達ふ出舎り是呉王の戒捨みせーとひを引て退ふ
岩ふ公達も燕丹の始皇ふ俳せーありひを引て
とりふ相戦ひく勝負成交せんとせーとあり

俄忘

怨敵思速抽武意勇猛奉
加守護之源雲張大将能
来為福和不忘時

説ふ公達戒組ーた
前をかんとーくよく
ふまーバ我一ふ以弟敷盧ふ等ーた矢ふ年ふまーバ
恩愛の情ふ弱ふ勇気なるこそいろふも助けんやとふ人ふ
も後の源ふ源氏の軍云雲張のごとく実ふ来る由人ふ
ふく見ふ敵ふく対ふるぞ後ふ者の当ふ当ふ当ふ


織田信長實者源氏
彼多勢見、高
參河國
樊噲が漢の高祖の
天下、數の英雄あり
數の割注の
射術のごとく
を助けん
源氏を
平家の
我武家
樊噲が書面の
真實適
異説
得天下、
蒲御集乃
上車

されども敵の寄くるの名をしらずして早竟数や既に
どの小虫が集り雷声をなすごとく蟷螂が斧を以て立車に敵せん
とする
勲挽弓放矢操鉄鍛擬
奔命同方流船於西海漂
自他浮沈家国周栽
味方も命をすてて西海の浪にうかぶ
中にも武術を激し
軍中に働きて敵に
也も家の面目とするところなれば是八実にある敷也

せしより出なる詞の尽
就中若君敦盛之処
唯惜御命難遁事可申弟
以書状由頼被仰下為末代
押漢御頼候年
中にもこの公達を助けまいらせんとおもへども叶ふまじ
然るに敵のなひ我を誅せんと来る人どもおほく
今まで我に付よとの給ひ唯なる嫡男を縁ある

滅亡すべき対
なりとあり

娑婆痛苦世界と
浄土荘厳世界

君等信西郷隆盛
源義朝悲歌

我この公卿と云へる勇士
同郷もろむまびきそかく悲
歌の言葉をもてとそと宿
業の妙理を歌せ〜あり

雖然是非此迷
郷の互切生死

他者一蓮此郷

さらんにつけ
特の地獄切く一蓮絶生の外と
なるべ迷郷却て此郷のあるとん

尽刹順郷成

地獄則永閉扉也

西方極楽世界

世界実有世界

此娑婆世界

世界実浄土者也

だれの地を去なく公卿の乃法を弔ひたまらん
見実なりや香の後の関の明の名ん

世界の

結不濃一貫二百枚為恵減恐

緒言

世世の有をもちゐく修書

人中よく是れよと有

寿永元年二月八日

高倉の女徳帝の年号元年甲午

一の谷の戦一ノ谷羽年

丹治恵賢

[illegible]

丹治は姓氏桓武天皇十二代平盛方四代の孫武蔵大里郡の住人私

[illegible]

所一書の[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日牧ノ方の御[illegible]生法師と号す義元二年九月

[illegible]年七十二一説に[illegible]

[illegible]光と頼朝を[illegible]

光は梶原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

進上結婚年間

[illegible]実は[illegible]

[illegible]

經盛一通状

去ぬる頃、御めぐり申し、とゝの帰武州大里
郡蓮生山熊谷の里にまかりすみ侍りしに、
実ゝ無ものの状を経盛
平右馬頭殿より給はり侍りし
一通の状を、今月七日拾物に給はり侍りし
敦盛の遺物、通盛卿の
三男の二歳の敦盛
の三男の二歳の敦盛
を付給ひ、死骸と共に甲冑ならびにその身の源氏
送り参ら
せ給へ

出羽坂郷各振源平両海
之波上に集運命無飛鳥恐可
驚

今度我故に
運命の尋ぬる人絶く望悲のことなれば対面せんこと今度
なりがたしとあり

又陸奥場の二歳敦盛
生者滅滅と之間光陰不定

貴寺也

[illegible]

雖無戒行為佛子也

[illegible]

而儀釋尊弟子羅睺羅尊者

[illegible]

竟現權化猶於泥犁獄不免也

[illegible]

況文哉

されども今世に生まれて [illegible] 羅睺羅 [illegible] 十九歳の [illegible]

[illegible]

況老者七日

況村上朝今日異樣未雖

仏蘭西轉戦
薩摩不通書
実録

[illegible]

東洋拝仏神
月岡源兵衛
[illegible]
源頼朝之遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之通相違無之候ハ、
為後日之証文
如件

寛永二年二月十四日

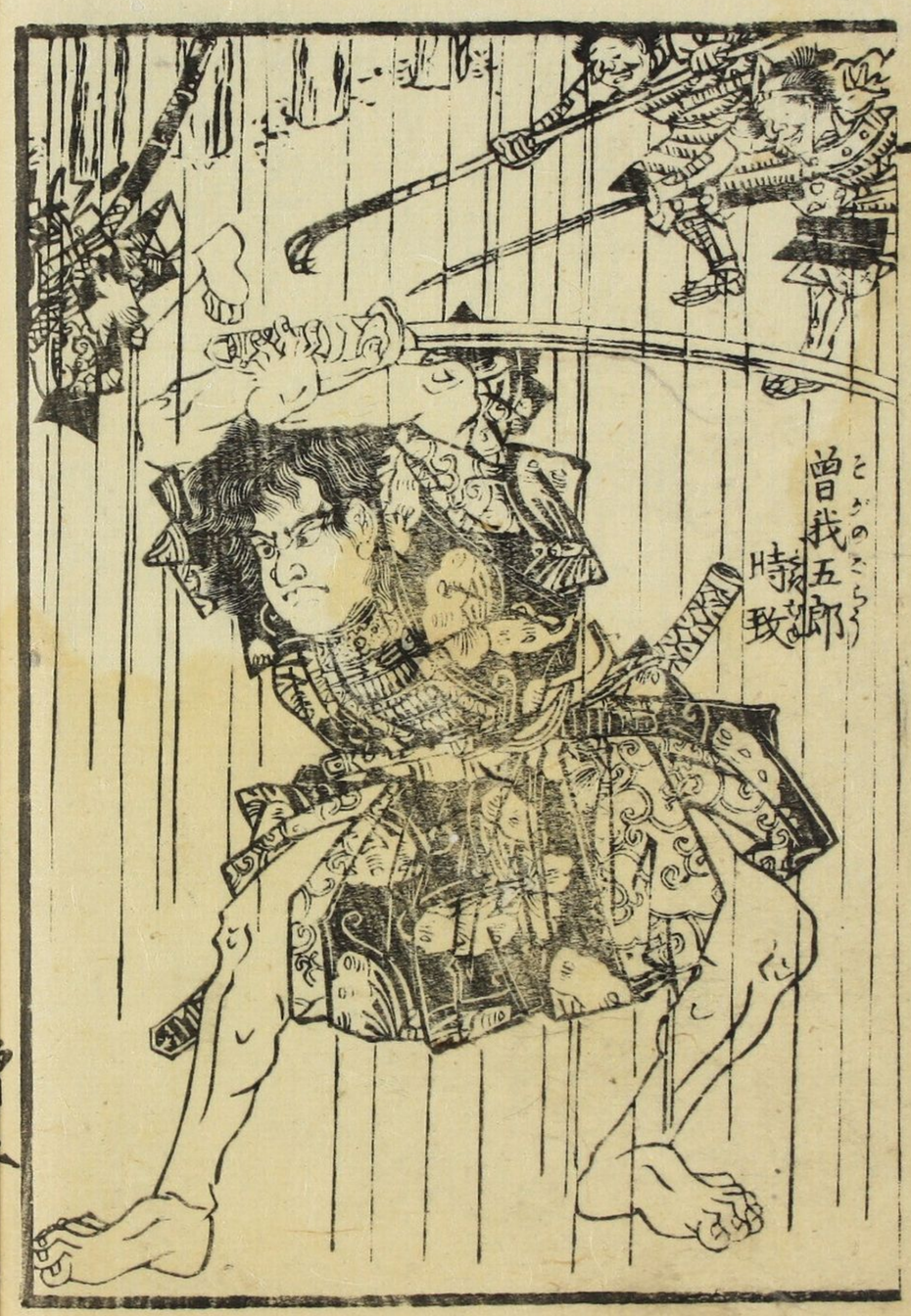
惣兵衛

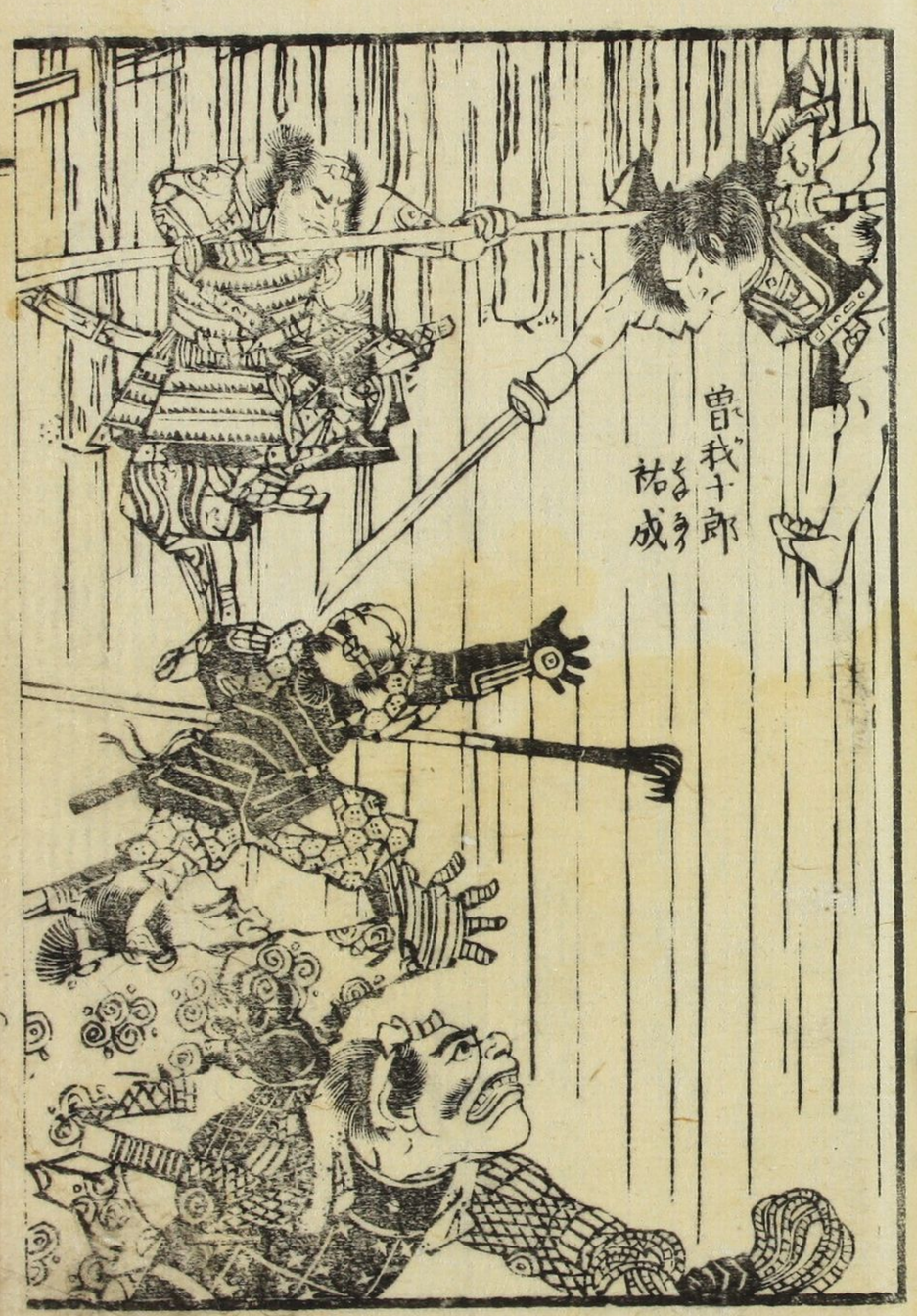
徳次郎殿

工藤
左衛門尉
祐經

伊東祐親と工藤
左衛門尉祐常は叔父甥の
一族なり祐常伊藤ふ
うふうありて祐親の子川津
三郎を遠矢ふ射とあくう曽我兄弟い
川津の子にて幼少のとき父をうれ
共ふ天をいでうざる仇工藤ふうらみ成
久さんと年來こころをはしける五郎時もり
箱王丸とうのびおさなのれとこゝろをはの
別當のりとあく工藤ふあひ短刀をあたらる

箱王丸


曽我五郎
時致


曽我十郎
祐成

君父の仇あるものハ寐食をやすんせざる我兄安井余年の辛
苦むなしく富士の山野に仮屋へ寄びいり法華をとうとく
唱へをさしまを極めをけちろの仇をうと幕府の名ゆるさ
ちろくをみぬくわこの大勢出命をあらひ十郎ち
仁田四郎に討れ五郎ハ生どりの四郎ハ生どりの四郎ハ
をちゆ人ゝ孝心勇敢を感じ五郎が命を助くと云しめ
さるれども又遺恨うさのらんと義経八幡大房丸ハ五郎をあり
大房丸ちろく五郎が首と二度うち君のくく
不向ひ相伴し恨をそ遂ようをもて上ゝ孝心の孔子の心を義経せり

曽我快

是ハ曽我兄弟の工ふ生く掘原果物
より曽我結作人達する所の快あり

今月共八月之欲於富士野之狩
場曽我十郎祐成月命附父
巧緑報相寿御ゝち陣敷

伊豆國住人工藤左衛門尉祐經
伯父國住人宮藤四郎

祐盛附伯父兄弟ハ大藏冠内大臣源頼公より十八代伊藤次郎
入道祐親の孫河津三郎祐茂の子なり十郎五郎兄弟
の母父を討まゐらせ兄弟を得て曾我の殿祐経ハ
平家ハ以ての外の悪人なり曾我を氏とし
急源に武者所結城の御の兄工
後妻届土肥の牧婿せらるお河津大小名まくく十万余騎

連の捷さう第我兄弟ハ本来工藤を討んと幸若せーうべ山河も悲嘆
ハ給まそつ子縁ひ母共八月の夜子義ゲ菖蒲の屋形人思ひ今て亡父の仇
祐経成討ーん工藤内系氏ハ者伯津宮の祐茂しゲ一朝源舎義の不
無を家り流浪せ成祐経ゲ成ゲ兄せう是本国人ゆるくく立
者の名術成悔ゝ兄弟ハ彼伯家ハ破門ゲ付ーん夜中不ハ記
ー逐動あるべ伯の兵人もあく陣くよう敵を付止んと出合ーよう
見相あく打向ひお戦ひ果ハ兄弟ハ本陣へ乱入
伯座をくをこまーうべ縁敵を切ゲ

墓参

怪しき者也彼徐賊其外徐

結金兄法師金子禅師房

同人之由有其聞不可被

石進之由也仍執達如件

建久四年六月廿日　遠久人望八十二代後

梶原景時　鳥羽帝の年号なり

見也

第我太帝

第我太帝　始伊勢大神宮　遠江国大石寺

十四代たる元進法の御弟子

同返状

去勝月御教書今月二日到

来状同来月

来状年拾廿法師

禅師房并乙虎郎兄弟京
於紀伊東海道刃取各別
装束一々結成

小次郎ハ京都にあるよし 聞しかば 別所に便を求めて
さまでく い奇なく且とまり 囲に京へ
範頼の 後へ 曽我兄弟の 母方 にして 京 都 男 男子 初て 結ぶ
子なり 結城 ヵ 男 曽文月 彼の 兄弟 修禅 寺 一の男之 附 六波羅
範頼に 配流 しておし 小次郎 曽我 兄弟の よしみの 如く 鎌倉 勝 鈍 老
梶原 範頼と 同 京 都 ... 其 童 の 盡ぶ 奈ど て 範 頼 を 誅 し 顕 紹

蒲殿範頼ハ伊豆の修禅寺へ配流せしむ 斯て範頼の弟
當ら鎌倉を根して範頼 讒の為所に揃ひの内 合戦の
用意の後 今年八月 梶原景時 結城朝光 仁田忠常に命じ
事ども讒の為出人 経て攻ける 殊に 討れ其の
余多の人々に落失ぬ 小次郎 修禅 寺にて 逃 彼の 此を捨て
落行しが 彼又 小次郎 曽我 兄弟に生捕れて 誅せらるとなり
範頼 梶原 山 小次郎ハ京都 所のよしなりとありしハ
にて 範頼人 結人 とのへども 範頼 又 鎌倉 とあらば 自
う 誅しく 兄 小次郎 二方 ホ来りとの人 ども 人一番 勤めぶりし
其や 今 禅師房も 浪人 山て 行方 知るべき 人 罪せられぬと

あまたの猪名義より義経ふ命じてうたれうとあまたの弟ハ由
緒の者なれども義経ハ親しきあけまべ彼ふが一門まで初ざうあれ
あらべふ次第とまいらで
ひ方初ざうとハ出ざうし

禪師房ま浪人ま名

俗ふ初ひ方ひ不ふ以ふ進候仏

世有様ま一ま有ま弟候ふ候ふ

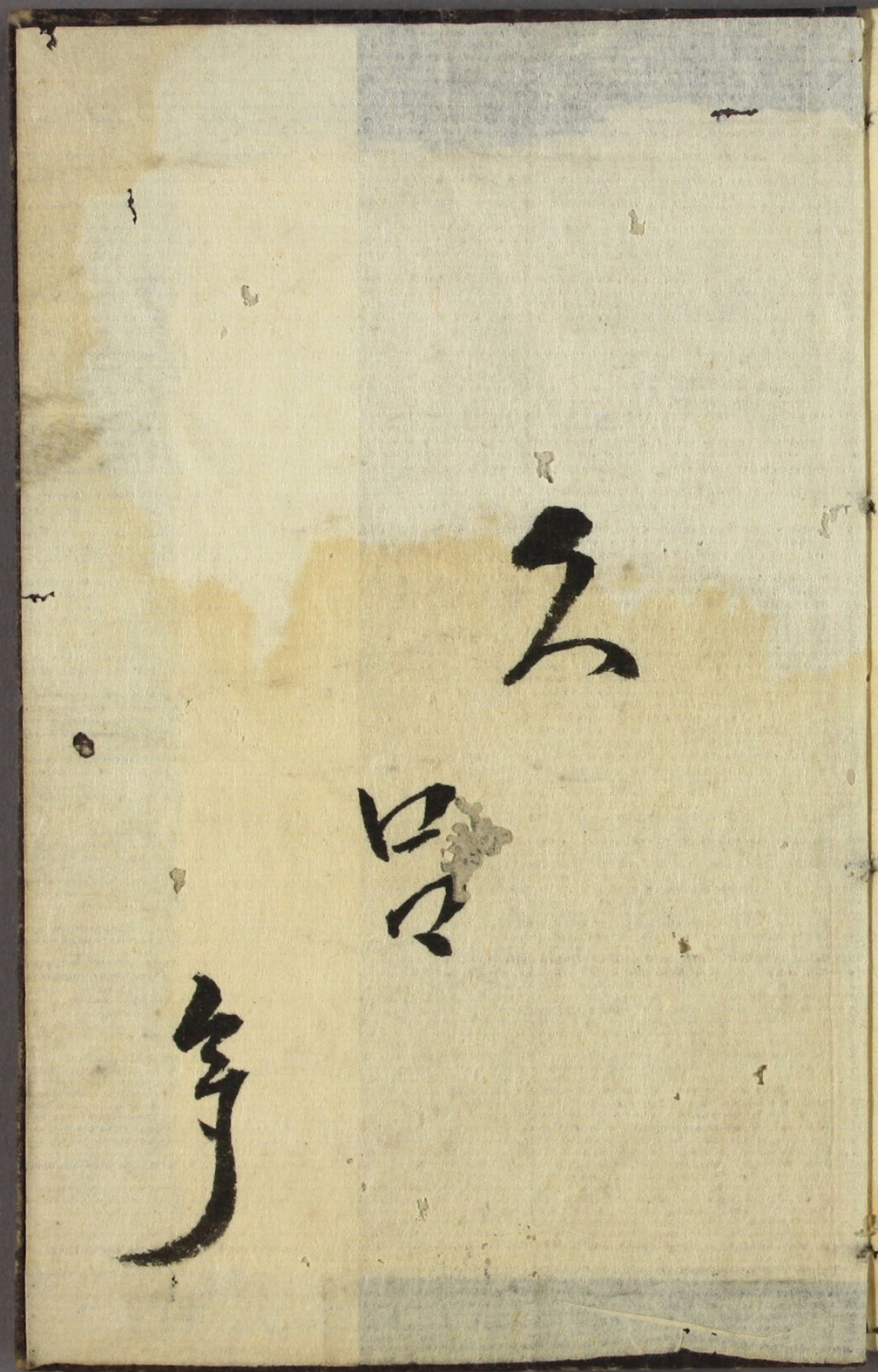
禪師房ハ一因義経の書のごとく高しう人出家ひ浪人とひ
寺ふ入ひ方を初ひげる由人ふを出るみよりしひ仏を中よそ

これ
ふ出よりまよりそ禪師房ハ稲荷付まそ後猪名ふ生まれ子ふ中そ仏又稲東
九弟稲荷書ふくふ義経ふ稲荷ふ問合戦ふ付ませ申ふ稲
荷ゲ後宮興して平安義経ふ義経宴ふのごとく高
後宿とふ宴ふとふして神後ふ平ゲふ戦兄弟ふ付ま浪猪
舎ふ義経ふ命ふくふる由人禪師房ハ
猪舎ふ弟縄ふ出家ふ生年十八ま英雄ふ法ふ

六月分

當我ふ命

進上 橋原ふ年ふ



注釋　北江老漁

畫圖

○今川狀　歌川國直
○手習狀　柳川重信
○腰越狀　玉蘭齋貞秀
○舍狀　玉蘭齋貞秀
○弁慶狀　ヨリ末　一貫齋金交

淨書

弘化二丙午年初開板
安政四丁巳年末增補

東都書肆　平林牧文堂壽梓

松澤文庫

分類所屬	書籍番号	藏書位置
一門一〇部二項	第一二六二番	第五号棚第ハ号函